



ビオトープから自然繁殖へ

中小学校前PTA会長 塩田 正典

「ぼたる飛び交う中地区を目指す運動の会」の会員の皆様のご指導ご尽力をいただき、6年生が理科準備室で育てていたぼたるが見事に羽化しました。5月12日午後6時過ぎに6年生が学校に集合してぼたるの観察会がありました。

ぼたるが放つ優しい光に大変感動したとの話を聞きました。

現在活動を続けている会員の皆様は、子供時代に近くの用水路にぼたるが飛び交う風景を記憶している方が多数かと思えます。わたしの家の近くにある用水掘にも小ぶりの「平家ぼたる」が飛ぶ姿をU字溝が建設されて2年くらいは夏に見ることができました。田んぼを取り巻く環境はぼたるの生育に適しなくなりましたが、水質の改善がされている場所もあるのではないかと考えています。

中地区にぼたるが飛び交うことを願っているのは中小の児童・中小学区に住んでいる方々ではないかと思えます。多くの子どもたちを感動と夢の世界に導いた活動がつづけれ今後会員の皆様を中心に自然繁殖が実現できれば素晴らしいと思えます。

心を紡ぐ ほたるの光

中小学校長 市村 栄美子

本校の子どもたちは、「ぼたる」の活動を通して、ぼたるの生育について調べたり、環境問題について考えたりしています。私は、地域の方々と学びの中で、地域に目を向け地域を愛し、地域を誇れる子どもになってほしいと願っています。

先日のぼたる本部役員会で、自治会長さんから「私も立ち上げの時、手作りのビオトープ作りに携わった。しかし、うずま川にぼたるを呼び戻すのは、難しいのではないか。」というご意見が出されました。それに対してぼたるの活動を続けてこられた方から「確かに難しいかもしれない。しかし、『うずま川にぼたるを魅せたい!』という子どもたちの思いや願いを大切に考え活動を続けてきた。」とのお話がありました。15年間も綿々と続けてきた活動の原点を再確認しました。

5月11日に、6年生が育てていた理科室のビオトープにぼたるのやさしい光を発見しました。6年児童の呼びかけで、次の日は、全校生に公開観察会を行いました。なんと20匹以上のぼたるが確認できました。児童だけでなく多くの祖父母や保護者の皆様も、幻想的なぼたるの光をいつまでも見届けていました。「チーム中小」にとって、ぼたるの存在は、極めて大きなものであると感じました。

今後も「ぼたるの光」という夢を追い続け、子どもたちや教職員、地域の皆様の心が紡がれていくことを願ってやみません。

ぬるむ水・土、素足に感触!

～ 中小学校田植え 5月6日 みんなの願いを込めて ～



＝大久保市長さんも一緒に田植え＝

中小学校の田植えは好天のもと多数のボランティアの方々と全校生とで5月6日に行われました。初体験の1年生には6年生が優しく苗の植え方を教えます。この田んぼには苗が成長し、緑のじゅうたんになるのも間近です。

6ねんせいといっしょ 1ねん

6ねんせいありがとうございます。はじめてやったのしかったよ。

6ねんせいがひものあかいばしょにうえるよとおしえてくれました。

いねがたおれないように 2年

田うえでがんばったことは、いねがたおれないようにぐっといれてあげたことです。それはたおれちゃうとじょうずにそだたないかもしれないからです

田うえでたのしかったことは「ベチャベチャ」はねてぬれたことです。ふだんぬれたり、はねたりしたことがないからです

おいしいお米になあれ

3年

田うえは、今年で3回目です。「おいしいお米になあれ」という気持ちで1本1本想いをこめてうえることができました。

中小学校の田植えは地いきの方々と協力して行っています。わたしたちだけでの力ではたうえはできません。これからおいしいお米ができる日までみんなと田んぼを見守っていきたいです。

五七五 ～ たんぼに あしがはまって おどろいた ～

五七五 ～ 田うえはね いねを大きく するためだ ～

五七五 ～ まちどおいしい おいしいお米が できるまで～

お米のしゅうかくがたのしみ 4年

5月6日、4回目の田植えをしました。田植えができたのは松本さんとます田さんのおかげでだとおもいました。ます田さんにはなえのうええ方が上手だとほめられました。今年の田植えは一人でやったけど来年は5年生で2年生に教えるので上手に教えたいです。秋になっておいしいお米をしゅうかくするのが楽しみです。

五七五 ～ 秋までに すくすく育て 中小米～

地いきの方と田植え 5年

5回目の田植えをやりました。わたしは2年生二人に教えました。やさしく声をかけて楽しくやることができました。地域の方がいるからできる行事です。今はほとんど機械で植えていますが中小はみんな手で協力して植えています。来年は最後の田植えです。1年背の時初めてやった田植えが今では最後です。妹たちが卒業するまでこの行事が続いていると自然の大切さがわかんと思います。これからも地域の方とやっていきたいです。

五七五 ～ これからも 続けてほしいこの行事 ～

小学校最後の田植え 6年

今日は小学校生活で最後の田植えをやりました。最高学年なのではじめて田植えをする1年生と一緒にやりました。1年生は覚えるのがはやくて教えるとすぐに出来るようになりました。土は毎年同じようにドロドロで冷たかったけど苗を植えていると楽しくなりました。来年は中学生になるのでできませんが、地域の方々に支えていただきながらこれからもずっと中小学校の田んぼが続いてほしいです。

五七五 ～ 1年生 すごく上手で びっくりだ～

ミニビオトープにほたる舞う

6年生が去年先輩から引き継いで、ミニビオトープづくりをしてから2年間の創意工夫を重ねた成果が遂に実現しました！ 児童たちは理科室で一足早いミニ鑑賞会を5月12日に実施しました。
やったね6年生！

みんなで育てたほたるが 6年

ぼくは、理科準備室でほたるが飛ぶ姿を観ることができました。みんなで育ててきたほたるが、とてもきれいに光ってうれしかったです。

ヘイケボタルが成虫になり光って飛び、ゲンジボタルももうすぐ成虫になるところです。だから、ゲンジボタルのためにみんなで協力して育て、ゲンジボタルも飛ばしてあげたいです。

五七五

～ 光ったね ぼくらが育てた
ほたるたち ～



= ミニビオトープと6年生 =



= 羽化した成虫 =

地いきの人と感動を 6年

私は、自分たちが育ててきたほたるが幼虫から成虫になり、とてもうれしかったです。夜、学校に観に行くと、何匹ものほたるが光り飛んでいて、とても感動しました。拍手も起こりました。6月のほたるを観る会には、もっと多くのほたるが飛んで、地域のみなさんと感動を味わえたらいいなと思います。

五七五

～ ほたるがね 成虫になったよ
うれしいな ～

ひとくち 一口メモ

～ホタル・その語源～



日本で、最も古い書物である「日本書紀」に螢という文字があります。今から1,200年以上も昔です。

最初にこの言葉の語源の起こりを考えたのは江戸時代の学者貝原益軒です。

彼は「大和本草」の中で「ホ」は「火」のことで「タル」は「垂れる」という意味であり、ホタルが発光するさまを「火垂る」と表現しホタルになったと考えました。

同じ江戸時代の生物学者小野蘭山は「星が垂れている」とも考えられる。と述べています。

事実中国の大昔の詩にもホタルを星に見立てて詠ったものがあります。

5年の時から育てたほたるが飛んだ！

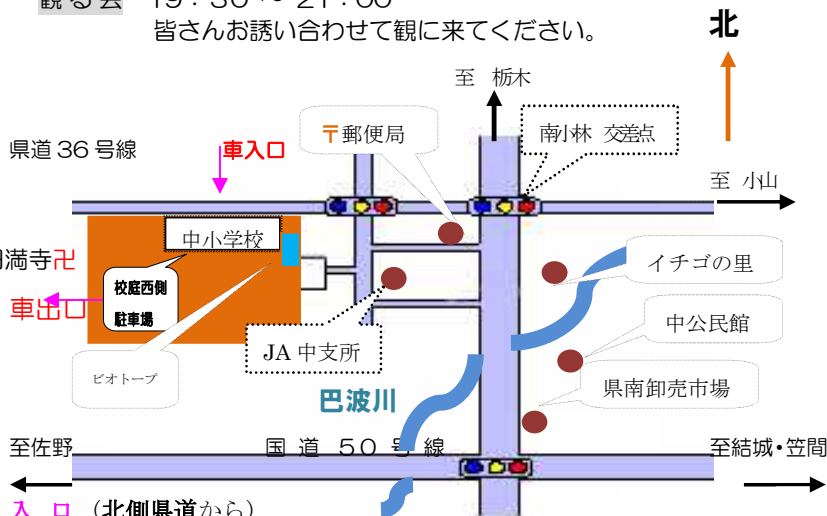
6年

5月12日に「ミニほたるを観る会」に行きました。ぼくたちが5年生の時から育てている、愛着のあるほたるが飛んだので、とてもうれしかったです。6月のほたるを観る会よりも早くほたるが光り、理科準備室のビオトープで間近で観ることができ、独り占めした気分が最高でした。外のビオトープのほたるたちも、ザリガニを駆除したりカワニナを入れたりして大切に育ててきたので、元気に光って飛んでくれることを願っています。

五七五 ～ ぼくたちの ホタルが光って うれしいな ～

ほたるを観る会

★ 6月10日(金) ☆ 6月11日(土)
式典 18:00～18:40 観る会
イベント 18:40～ 19:30～21:00
観る会 19:30～21:00
皆さんお誘い合わせて観に来てください。



入口 (北側県道から)
・「観る会」のため午後7時～9時の間はなるべく車の出入りはしないようご協力ください。
・車は、西向き <ビオトープを背にして> 駐車してください。
【ほたるは、明るさを嫌います。】

出口 (駐車場西側から)
夜店…前 PTA 役員・中地区育成会の方々・道の駅「美田の郷」の方々の御協力により
< かき氷・フランクフルト・焼きそば・稲荷寿司・おにぎり・からあげ・芋フライ > … お楽しみに！

「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」を支える方々

- 会長 森田 弘
副会長 ・宇賀 正 ・酒寄 広子
・桑原 敏郎 ・市村栄美子
ボランティア <順不同>
・新井 幸男 ・小暮 米作 ・田波耕太郎 ・青木 新市
・増田 博利 ・神山 芳典 ・諏訪 信栄 ・黒須 孝次
・神山 宜久 ・神山 和男 ・熊倉 弘 ・谷田貝 進
・塩田 忠男 ・大橋新太郎 ・小川 三次 ・松本 生男
・五十畑寛一 ・中澤 成公 ・荒川 栄 ・久保田 守
・増田 真司 ・荒川 廣一 ・石塚 寛治 ・須賀 秀吉
・大久保矩男 ・玉野 一雄 ・松沼 和雄 ・渡邊 敏雄
・大出 東壽 ・須賀 久夫 ・飯田 利美 ・関口 利男
・渡辺 秀雄 ・岸 利一 ・渡辺 利也 ・小林 雄二
・荒川 徳文 ・松沼 敏雄 ・福島 一美 ・大出 政勝
・相川 祐二 ・岸 保 ・小川 修一 ・岡本 榮二
・島田 精一 ・石川 浩司 ・荒川 英紀 ・熊倉 悦雄
・青木 勝 ・大出 隆 ・須賀 昭夫 ・原 久
・小川 典男 ・酒井 清澄 ・島田 淳 ・白石 秀之
・荒川 進 ・齋藤 隆夫 ・青木 勝 ・須賀 敏夫
・須賀 昭夫 ・神山 秋広 ・古口 忠男 ・田中 房雄
・小川 真美 ・前田 秋子 ・大森 利男 ・荒井 淑恵
・松沼 由美 ・塩田 正典 ・立石麻紀子 ・中三川洋子
・稲津美津恵 ・安斎 早苗 ・荒川 日和 ・齋藤 久美
事務局 上野 敏晴 ・金子 弘隆

= 編集後記 =

「うずまのほたる」も第27号発行に至りました。6年生の2年間のミニビオトープ活動ご苦労さまでした。自分たちが育てたほたるが飛んでさぞ嬉しかったことでしょう。おめでとうございます。

—うずまのほたる— 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・熊倉 悦雄・安斎 早苗
荒川 日和・上野 敏晴・金子 弘隆